

**「単元において付けたい力が明確で、習得・活用・探究のバランスのとれた授業」の実践
～授業づくり・学校として大切にしたい視点～**

〇〇立〇〇学校

【授業づくり】	1回目	2回目	3回目
1 各授業で育成する資質・能力を見定める			
(1) 学習指導要領を理解し、単元をとおして育成する資質・能力を確認する。			
(2) 学年や校種間の系統性について確認する。			
(3) 単元の中で、目標に対する評価場面や評価方法を吟味する。			
(4) 単元目標に照らして、本時の目標を焦点化する。			
(5) 課題が児童生徒にとって焦点化・明確化・自覚化されるよう学習過程を工夫する。			
2 各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせて考えたり、繰り返し活用したりする（場面をつくる）			
(1) 児童生徒が十分に思考する時間を確保する。（課題設定の見直しを含む）			
(2) 児童生徒の思考や反応を予想しながら、はたらきかける。			
(3) 板書をうまく活用する。（ねらいや学びの流れ、思考のヒント等の見える化）			
(4) 繰り返し活用させるなど、定着を図る。			
(5) 定着した知識や技能を活用する場面をつくる。			
3 学習状況を適切に評価し、個に応じた支援を行う			
(1) 形成的な評価を行いながら、目標達成の状況を総括的に評価する。			
(2) ICTの活用を含め、個別指導を計画・実施する。			
(3) 小テストや単元末テストなどを活用し、客観的に評価・分析を行う。			
(4) テスト等の結果から、自身の指導を振り返る。			
4 何を学んで、何ができるようになったかを確認する（場面をつくる）			
(1) 授業の中で、まとめと振り返りの時間を確保する。			
(2) まとめと振り返りの違いを意識して指導する。			
(3) 授業と家庭学習のつながりを考え、適切な家庭学習を課す。			
(4) 個に応じた補充や発展等の指導を計画・実施する。			

【学校組織】	1回目	2回目	3回目
1 学年や教科を越えて、日常的に授業実践や児童生徒の様子について「付けたい力」を視点に語り合う			
(1) 学校として育成を目指す資質・能力が共有されている。			
(2) 子どもの変容を把握し、評価・検証する方法が共有されている。			
2 研究リーダーを中心に、協働的に教材研究を行う校内組織・体制を整備する			
(1) 若手とベテランそれぞれの立場を生かした役割がある。			
(2) 研究の方向性等を周知する場面や方法が確立されている。			